

Title	端西時代のキルヘルム・ワイトリング：『ワイトリング研究』の一節
Sub Title	
Author	平井, 新
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1927
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.21, No.3 (1927. 3) ,p.349(51)- 379(81)
JaLC DOI	10.14991/001.19270301-0051
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19270301-0051

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

であらう。他方英國の預金銀行も亦以上の議論に刺戟せられて兼營銀行となることはないであらう。此點に於て英國銀行の權威 Sir Drummond Fraser が最近に銀行に與へた定義は此際特に注意す可きものである。曰く(一)

The Name "Bank" only include institutions where, a substantial part of such business consists of the receipt of money on current account to be drawn upon by Cheque.

かくて英國銀行は飽くまで非社會的利己的預金銀行として止まり、Liquidity の爲めに凡てを犠牲に供するであらう。而して此の犠牲に對する方策としては會社法の改正、取引所に對する干涉等の別個の方面から之に望むものであると考へられる。而して此方面に對する政策は最近既に表面に現はれて來てゐるやうである。

(1) The Banker 1926, p. 54.

(一九二六—二一—一六)

瑞西時代のキルヘルム・ワイトリング

——「ワイトリング研究」の一節——

平井新

マルクスやラッサルの盛名に較ぶれば、獨逸社會運動の先驅者キルヘルム・ワイトリングの名は餘りに忘れられてゐる。況して彼の思想おやである。果して正當であらうか。成程彼の思想はプロレタリアの階級闘争に正當なる道を示す事が出来なかつたかも知れない。しかし近世獨逸社會主義運動の口火を切つたのは實に彼ではなかつたか。固より共產主義的傾向を有する個々の散逸せる思想は彼を俟たづして既に獨逸に存在した。しかし乍ら何等實際的運動となつてプロレタリアの心を捉へたものはなかつた。口頭や著書に依る宣傳、プロレタリアの組織に依て人類社會生活の上に、共產主義思想を實現せんとした最初の系統的運動は實にワイトリングに始まるものである。尙又彼の共產主義思想は幾多荒唐陳腐の要素を包含してはゐるが、それがため總てが棄てらる可きものではない。筆者は此意味に於いて久しくワイトリングに興味を持つものである。

本稿は筆者の「ワイトリング研究」の一部を成すものであつて、一八四〇年—四四年迄の彼の生活、換言すれば彼の最も活動的な、従て最も得意の時代であつた瑞西に於ける彼の社會運動に關する敘述である。運動を敘する前に其理論的根據となれる彼の社會思想を説明す可きである事は固より筆者の了知せる所であるが此點は他日詳述す可きに依り姑く之を割愛して主として運動のみを敘する事とした。此點切に讀者の御寛恕を得度き所である。

筆者は本稿脱稿後ワイトリングの瑞西に於ける運動に關する根本資料 Bluntschli, Die Kommunisten in der Schweiz nach den bei Weiting vorgefundenen Papieren 1843 を入手したが遂に參考の逸なかつた。筆者は他日必ず稿を改めて不充分の點を補ふ積りでゐる。

(1)

固より共産主義思想はワイトリングに依て初めて瑞西に齎されたものではなく寧ろ其れ以前に遡る事が出来る。即ち佛蘭西王政復古時代に唱歌教師としてゲンフに滞在し此地で有名なる「*Compiration pour l'égalité, die de Babeuf*」を書いた Philippe Michel Buonarroti に依て夙に齎されたものである。(一)併し乍ら瑞西に於ける共産主義運動が新生面を開拓して、瑞西にとりて重要な意義を持つに至つたのは専らワイトリングの活動に俟つものであると云ふも決して過言ではない。

正義者同盟(二)は先づ瑞西に在住する獨逸労働者の間に共産主義思想を鼓吹し、更に瑞西より獨逸本國へ向け宣傳を行はんと欲した。ワイトリングは、一八四〇年の夏、此使命を帯びて、同盟本部より三十法の旅行手當を受けて暫く巴里を去つてゲンフに赴いたが、次いで翌四一年の春、正義者同盟援助の下に共産主義者の組織を建設する目的で愈々此地に永住する事となつた。ワイトリングの生涯を飾る可き最も活動的な瑞西の共産主義運動は實に此時に始まるものである。

ワイトリングの共産主義運動は、早くも、ゲンフに於いて苦境に陥ることとなつた。夫れは『青年獨逸』, *Das junge Deutschland* の餘勢尙は侮る可からざるものがあつたからである。之より先ベルン政府は一八三六年八月十一日國民議會の決議に依り、瑞西に於ける秘密結社に参加せる總ての亡命者を國外に追放する事となつた。此厄に遭ふて國外に追放せられた者、一八三六年八月既に四十名を算してゐる。(三)斯くて『青年獨逸』の幹部は瑞西より追放せられ、瑞西に於ける結社運動は悉く禁壓せられ、此地の獨逸労働者に對する政治的宣傳は一時は、殆んど全く屏息せるの有様であつた。

斯かる状態の中にも、『青年獨逸』の殘黨は尙ほ法網を脱して國內に止まり比較的注意を惹かない *Wacht, Genf* 等に潜伏して、相變らず會合を續けてゐた。此の所に再興した『青年獨逸』は苛酷なる官憲の壓迫に遭ひ、全秘密結社と化してしまつた。ゲンフでは青年獨逸會員が讀書會を造つた。勿論爰では政治上の問題には觸れなかつたが、労働者を『青年獨逸』に引き入れるに可成り役立つた。其後獨逸亡命者 August Becker 及びゲンフに於ける獨逸教會の設立者 Weitzel が青年獨逸會員と協力して、労働者教育俱樂部 „*Arbeiterbildungsverein*” を作つた。此俱樂部には初め多數の瑞西人が加入してゐたが、同俱樂部が青年獨逸會員の壓倒的勢力に依て急進的政治的性質を帯びるに到るや、彼等は程無く Weitzel と手を携へて俱樂部を脱退してしまつた。

一八四〇年夏、ワイトリングが初めてゲンフに來り、此地で共産主義運動に着手するや、先づこの労働者教育俱樂部に現はれた。併し乍ら此俱樂部を組織する多數の青年獨逸會員が未だに尙ほ共和主義的、純政治的傳統を固守して、共産主義の何物たるかを知らず、只管、共産主義に支配せらるることを恐れて、之を侮蔑したので、爰にワイトリングは激しき反對に逢着する事となつた。

ワイトリングは、労働者に對して、宿案たる共同食事組合の設立に依て年々一萬四千法の純益を擧げ得る旨を説いて其設立を俱樂部に促がした。俱樂部は此提案を受理したが、固より多數は共産主義に對して好感を持たなかつたので、ワイトリングが若し此組合設立の曉、豫定の利益が擧がらなかつた場合は無報酬で職に盡すから此組合の管理者に就任させて貰ひ度いと申し出たにも不拘、彼を遂に管理者に選ばなかつた。

共同食事組合は實際に於いて大規模に建設された。然るに此組合會計係は寄宿者から金錢を徴收し乍ら、少しの支拂をもなさず。一年後、九千法を携へて逐電してしまつた。事情斯の如く、最初の實際的共產主義的施設は不幸にして蹉跎してしまつた。この事は直ちにワイトリングの新學說を覆へす理由とはならないが、少くとも同志を糾合する妨げとなつた事は言ふを俟たない(四)

(二)

勿論ワイトリングは労働者教育俱樂部の全會員を悉く同志に引き入れる事は出来なかつた。彼が糾合し得た同志は、實際少數であつた。この少數の同志の中特筆すべきものは August Becker であつた。

アウグスト・ベッケルはヘッセンの一牧師の子として生れ一八三〇年來、終始獨逸に於ける革命運動に参加し、獨逸に於ける共和主義運動の發現たるハムバッハ祝祭事件には牧師 Weidig と共に牛耳を握つた。彼はギイセンに一神學生として Georg Buchner と相識り、彼の感化を受けて社會主義者となり、ブヒネルの著にして Weidig が補訂せし小冊子 „Der hessische Landbote, erste Botschaft, Darmstadt, im November 1834“ を宣傳した。勿論本書には社會主義思想が可成明瞭に表明せられてゐる。ギイセンの陰謀發覺するや、ベッケルは捕へられ年餘の未決監の後四年の刑に處せられたが判決後直に特赦の恩典に浴して、一八三九年瑞西に來り當初より労働者運動に参加し前記 Weitzel と共に労働者教育俱樂部を建設したのである。ワイトリングが此地に來るや、彼は直ちにワイトリングの共產主義を容れ、彼と共にゲンフ、ワート方面に宣傳を試みた。ベッケルは自ら卓越

せる人々の思想を凌駕し、或は又之を批評的に理解する能力を有たなかつた。彼の人物は情趣に富み、既存の思想を空想的に造り上げ、他人の思想を平易に、通俗的に、且つ極めて明快に解説する非凡の才能を持つてゐた。彼が、容易にワイトリングの共產主義を容れたのも是等の性質に負ふ所大であるが併しワイトリングが思想家として遙かに彼に凌駕せるためであつた事を看過してはならない。何は兎もあれベッケルを同志に得た事はワイトリングの大なる收穫であつた。(五)

(三)

ゲンフの労働者教育俱樂部に於ける共產主義者と青年獨逸會員との軋轢は益々激しきを加へ、遂に同俱樂部は分裂する事となり、共產主義者は脱退して、自ら別個の俱樂部を建設する事となつた。ゲンフに於けるワイトリングの共產主義運動は決して成功せしものであると言ふ事は出来ない。ワイトリングは、併し乍らこの不成功に對して決して失望しなかつた。

ゲンフに於ける不成功に引き換へ Waadt 地方に於けるワイトリングの共產主義運動は幾多の收穫を收めた。既に述べた如く共產主義はワイトリングに依つて始めて瑞西に齎らされたものでは無く、夙に佛蘭西の王政復古時代に唱歌教師としてゲンフに滞在し、此地で有名なる『バベヨフ陰謀史』を書いた Buonarroti に依て既に知られてゐた。ブオナロッチは此地に滞在中、共產主義を鼓吹して、ワート地方の裕福なる多數の瑞西人を同志に得た。是等の人々こそはワイトリングの運動を援助せし人々であつた。彼の運動が逸早く此地方に確固たる地盤を築く事が出来たのは正に斯の如き共產主義的要素が既に存在したからであつた。勿論是等の人々は其社會的地位に鑑み公然、共產主義の

宣傳に従事することは出来なかつたが却て其のために運動を有利に導き、自己の政治的勢力を利用して間接に其運動を援助する事が出来た。ワート地方は實に是等共産主義者の根據地であつた。ワイトリングの共産主義が勢力を増大すると共に、ゲンフ、ロオザンヌ、Lachauxdefondsにワイトリングの影響の下に最初の共産主義労働者俱樂部が設立せられた。是等の俱樂部の存立する所には又食事組合が設立された。

此時に當つてワイトリングの股肱となつて其運動を助けたものは鞆皮職人 Simon Schmidt であつた。彼は Württemberg の生れで、同じく巴里の正義者同盟の會員であつた。ワイトリングは前述の如くゲンフの労働者教育俱樂部を共産主義に引入る事が出来なかつたので、幾何も無く之を脱退して爰に Schmidt と協力してゲンフに正義者同盟の瑞西支部を設立することとなつた。

(四)

正義者同盟の宣傳は初め佛蘭西系瑞西より漸次獨逸系瑞西に推し廣められた。本同盟は獨逸、佛蘭西の如く何等結社の自由の存在せざる諸國と連絡を保つ必要上、秘密結社の形態を採ることとなつた。ワイトリングは、最も信憑す可き且つ最も活動的な共産主義者のみを以て此結社を組織し、此中央部より、教育俱樂部、聲樂俱樂部、食事俱樂部等の公認俱樂部を指揮した。是等の俱樂部は主として本同盟の募兵局として役立ち、啓蒙と共産主義的施設とに依て宣傳を促した。共産主義的施設中、最も著しきものは食事組合であつた。ワイトリングは是等共産主義者に依て設立された労働者の俱樂部の組織こそは共産主義社會の模型を仔細に示せるのみならず亦資本主義的無政府及び

搾取の只中に在つて將來社會の基礎を置くものであるとの空想を堅く信じて疑はなかつた。之に關して、ワイトリングは、ブルンチライの委員會報告 „Bruntschlis Kommissionsbericht“ 中に發表された原稿の中で次の如く言つてゐる。

『此俱樂部生活は國家に於ける市民と政治家の學ぶべき眞正の學舎である。吾人が歴史と實際生活に依て極く大體だけ知り得たものを爰で仔細に亘つて知る事が出来又親むべき機會を有つ。最も大膽なる進歩思想を識り、之を部分的に俱樂部生活に實施せんと欲する。此點に於いて進歩思想は、特に多くの政治家を訓育する國家の模範的學舎である。政府が法律と刑罰とを以てしても出来なかつたものが、僧侶が宗教を以てしても出来なかつたものが、兩親が立派な御手本を以てしても出来なかつたものが、慈善團體が時間と金錢とを犠牲にしても出来なかつたものが、而も大多數の人々が不可能だと嘲り罵つたものが、俱樂部生活では僅少の費用で、労働者に依て成し遂げられる。今日既に労働者階級が總ゆる障礙に反抗して、能く其秩序を整へ、享樂の平等なる分配を行ふ事が出来ることすれば、此事實は、是等の任務が應て彼等に委されることになつても、必ず立派な労働組織を造り出し、社會に洋々たる將來を與へる力のあることを示すものである。予の確信する所では、若し全國の組織を労働階級に委ねる時は、警察、裁判、牢獄の要なき社會が實現せられ、總てが、自由意思と、物質世界の生活に比して遙に總ての人々に満足を與ふる新秩序の刺激とに依つて解決せらるるであらう』(六)

將來の共産主義社會の模型として、共産主義的俱樂部を設定するワイトリングの見解は、彼が巴

里の正義者同盟で學んだ原理に其源を發してゐることは言ふを俟たない。因に巴里の正義者同盟では佛蘭西の空想的社會主義者殊に Cabet の思想が行はれた。カベールに依れば共產主義は、同胞的意識の宣傳と共產主義的施設に依て始めて齎らさるゝものである。併し乍らこの同胞意識に代ふるに階級的意識を以てし、専ら平和的方法を用ふる事に反對せし事はワイトリングの遙かにカベールを凌駕せし點であると云ひ得る (七)

共產主義の浸潤と共に、共產主義俱樂部の數は増加し、かくて正義者同盟の勢力は漸次ゲンフ、ワアト Aargau, Zofingen, Zürich, Winterthur, Bern, Murten, Neuchâtel, Vevey, Morges の諸地方に扶植せらるゝ事となつた。是等の各地に散在する會員は、或は通信に依り、或は共同宣傳に依りワイトリング並に相互の連絡を保つてゐた。

同盟會員の間に „Du“ なる言葉が用ひられ、各會員は相互に „Brüder“ と呼ばれた。

正義者同盟は新に同盟に加入する者に對し嚴格なる誓約を行はしめた。其誓約文に曰く

『我々勞働者は、他人が他衣暖食してゐるのに獨り窮乏に苦しみながら、怠惰者のために勞働する事には到倒倦々した。我々は利己主義者のために、これ以上の壓迫を被り度くない。最も多數の而も最も有用なる階級を、墮落、窮乏、蔑視、無知のために苦しめ、勞働階級の主人たらしむ可き手段を、獨り少數者に與ふるが如き法律は最早吾人の尊敬する所ではない。我々は自由となり度い、そして地上の總ての人類が我々と同様に自由なる生活を營み、他人以上に善くも、悪くも思はれず、總ての人間が凡ての苦惱、艱難、歡喜、享樂を共に願つこと即ち共同生活を營むことを欲する。君は我々

と希望を同じうするか。我々は此目的のために一つの結社を作らなければならぬ。此結社は秘密結社の形式を採らなければならぬ。之は公然の結社をすれば敵のために迫害、破滅の悲運に遭ふ様な國々でも之に依つて充分我々の驥足を伸ばす事が出来るからである。會合で討議さるる總ての事件に關する秘密嚴守、同盟の動靜に關する秘密嚴守は各會員の遵奉すべき緊要事件である。君は我々と共に此點を承認するか。會議には誠意を以て臨み、止むを得ざる場合の外、缺席せざるの義務がある。君は此義務を約束できるか。入會員は總て同盟の共同金庫に月々寄金し、少くとも新聞 „Die junge Generation“ を豫約購讀すること、君は又かゝる犠牲を拂ふ事が出来るか。我々の同志が失職し、罹病せし場合は、彼に代つて彼の月々の會費を支拂ふこと。君は此事にも何等の異存無きか。我々の任務は遠大にして、我々の教義に對し、多數の同志を引入れ、之を同盟に加入せしむるに在る。併しかゝる場合には常に、組織の事についても、運動の事にも慣れた最も教養ある人々の指揮を仰ぐこと。君はこの點に於いても亦君の活動と誠意とを示すことを欲するか。會員は旅行に先て、旅行する旨と其目的とを監督者に告知し、町に滞在して八日以内に、自分の歸屬せる „Gemeinde“ に住所を知らせること、此點君も異存はあるまい。行く先何處でも會員を引き入れ „Gemeinde“ や俱樂部を造り、書籍を買ひ、我々の教義を高聲に、公然に宣傳することを拒まざるか (八)

是等の事實を高聲に讀了した後に、入會者は之に關する秘密嚴守を誓ひ其氏名を名簿に書き入れる。

會員は又同盟規約を遵守すべき義務を有する。それに依れば『各會員は奢侈を避け、享樂の中庸

を誤らず、同志の弱點に對しては寛大に、會員の醜聞を湮滅し、同盟の教義を口頭宣傳し、書籍を普及し、住居移轉の際は豫め其旨を同盟に通告し、共產主義宣傳費として月々少額の醵金をなすべき義務を有する』(九)

(五)

同盟の中心勢力を成せるものは手工業青年、特に其の大部分は全く獨逸手工業青年であつた。ワイトリングに次いで本同盟の卓出せる闘士は前記 August Becker, Simon Schmidt の他、Sebastian Seiler 及び Albrecht であつた。彼等は何れもワイトリングの共產主義の熱心なる信奉者であり、彼の有力なる協同者であつた。

Sebastian Seiler はミューンシャの Lüben に生れ、Liegnitz の書記であつた瑞西に赴き、Sebastiano なる匿名の下に民主主義的傾向を有する幾多の論文を著した。Murtén にワイトリングと識るに及んで民主主義を棄てて共產主義を奉ずるに到つた。彼は此地で共產主義のために二つの小冊子を書いた。„Das Eigentum in Gefahr! Oder was haben Deutschland und die Schweiz vom Kommunismus und Vernunftglauben zu fürchten?“ 並に „Krieg zwischen der Schweiz und Frankreich im Jahre 1838. Verursacht durch eine Schütze, einen Spion und die bernische Aristokratie.“ などある。

Albrecht はゲンツの Altenburg に生れ、嘗て獨逸の政治的陰謀に坐して六年間、投獄せられたが、獄中は専ら聖書を耽讀した。刑期を終えて一八四一年瑞西に來り、ワイトリングと相識るに及び彼の共產主義を奉ずることとなつた。彼は自ら『豫言者』と號し、共產主義の新福音を説くに好ん

て舊約全書の語句を以てした。彼は主として瑞西の北方及び東部に於いて共產主義の宣傳に従つた。彼には幾多の著書がある。„Das Ziel im Rosenlichte, eine Mahnung an die Wilhelm Tells unsrer Zeit,“ „Das Baldige Wiedersehen am Altare der Freiheit (Festgedichte),“ „Die Wiederherstellung des Reiches Zion,“ „Der Aufruf an die Frauenwelt“ 等は何れも一八四二年の著作であり、翌四三年には „Die Herausforderung der Priesterwelt“ の著がある。

(六)

正義同盟の組織や俱樂部に依る宣傳に次いでワイトリングは宣傳の方法を主として印刷物に求めた。

ワイトリングは其の第一着歩として、一八四一年九月、巴里及び倫敦の正義者同盟並に、窃に彼の教義に共鳴せるソアト地方の少數知名の士の援助を受けて „Der Hilfruf der deutschen Jugend“ と題する月刊雑誌をゲンツに於いて創刊した。本誌は既に創刊の當初よりプロレタリアの解放を目標とし、階級的利害を強調した。本誌の執筆者は主としてワイトリング自身であつた。ワイトリングは本誌創刊號に於いて同志の綱領を熾烈なる語調を以て述べてゐる。――

『我々獨逸勞働者も亦進歩のために精進する人々の隊伍に加はり度い。我々も亦人類の、社福と不幸を議する公共の會議に一票を持ちたい。何となれば、身にブルウゼ、ジャツケ、キツテル、カツペを着けた國民たる我々は、神の與えた廣き地上に存在する最も多數の、最も有用なる、最も有力なる人間だからである。我々は、我々の利益を最も能く知れるものであり、羅甸的、希臘的、藝術的表現を藉

りずとも、立派な獨逸語で、我々の苦惱の存する所、事理の存する所を表明し得るの事實を世人に説得するために、我々並に人類の祉福のために叫び度いのだ。我々も亦一票を有ち度い。何となれば我々は十九世紀に生を享けて未だ曾て之を得た事がないから 我々も亦我々を世人に理解するため興論に一票を持ち度い。何となれば世人は今日に至るまで殆んど常に我々を誤解してゐるから。我々も亦一票を持ち度い。そして之に依つて我々は我々の抑へられた心に喜びを興え、權力者の耳に我々の正しい不平を聞かせてやり度い。……總ての人々の利益に牴觸する個人の利益を排して、唯一人おも除外すること無き萬人の利益を提唱す(一〇)

爰にライターリングは、單に共和主義運動に終始する『青年獨逸』の純然たる政治的急進主義を排して、全労働階級の同胞提携と公然の宣傳とを以て全人類解放の必然的前提と認めてゐる。

當時ライターリングのために屢々共產主義の勸説を受けた著名なる獨逸の文學者 Karl Gutzkow は一八四二年四月十八日の『巴里通信』の中で偶々本誌に就て次の如く語つてゐる。――

『„Bitten, Betteln, Fechten“ と題する論文を見れば、當時の旅職人の状態が窺はれる。ライターリングは其中で、身に職無く、憲兵と盜賊に追はれて大道を遍歴した旅職人の窮迫を手取る様に鮮かに描いてゐる。……ライターリングが労働階級の貧困と沈淪とを描いてゐる部分の敘述は、勿論多少矛盾もあり、余りに感情に流れてゐる嫌はあるが、併し注目の價值がある。本誌の中で最も卓れた論文は勿論 „Paris im Jahre 2000“ である。この長論文は取り分け機智あり、才氣に溢れ、その上文體も全く美事である、恐らくライターリングの筆に成れるものであらう。それに相違ない』(一一)

本誌の經營状態は如何であつたか。之に就いてはライターリングが一八五〇年渡米後創刊した „Republik der Arbeiter“ に發表した一種の自敘傳とも見る可き一文の中に窺ふ事が出来る。姑く其記する所を摘記する――

『一八四一年の秋 „Der Hilfruf der deutschen Jugend“ と題する一月刊雑誌を起した。……同志は最初の年に一千名の購讀者を得た。其の中四百名は巴里の購讀者であり、百名は倫敦であつた。兎も角收支相償つたので自分は同志の賣捌きに別段心を煩はす事はなかつた。自分は其傍に職業を有つてゐて、當時一週間で三十乃至四十法を得てゐた。本誌の收入が相當這入つて來たので自分が専ら同志の事に當つてゐてもいい位であつた。自分が裁縫職を罷める様にと再三巴里から催促を受けたが、自分がゲンフから追放される事になつたので、愈々罷める決心をした。否そうせざるを得なかつたのだ。同志を更にベルンで續刊したが、爰でも官憲の爲めに捕縛されそうになつたので、襲撃をうける半時間前に之を聞き傳へて、丁度印刷した許りの二冊を携へてワアトに逃れた』(一二)と。

(七)

一八四二年一月ライターリングは Vevey に行つた。此地には既に共產主義俱樂部が設立せられてゐた。彼は此處で前記 „Der Hilfruf der deutschen Jugend“ を新に „Die junge Generation“ なる表題の下に續刊することとなつた。

ライターリングは本誌に幾多の所説を發表して、或は反對者の迷妄を駁し、或は自説に對する論難

に應へ、更に自説の完成に努めた。爰に既に彼の圓熟しつつある思想並に彼の主著 „Garantien der Harmonie und Freiheit“ の中に表明せられたる思想結構の一端を覗ふ事が出来る。

本誌は曩に „Der Hilfruf der deutschen Jugend“ と共に、當時尙ほ國民的、共和主義的性質を捨てざる『青年獨逸』の激しき攻撃に遇ひ、彼等のために „Augsburger allgemeine Zeitung“ 紙上で馬鹿者だ、無賴漢なとの嘲罵を受けた。關係諸政府も漸く之を注意するに到り、佛蘭西政府の如きは國境に於いて之を沒收し、燒棄した。倫敦への發送も其道を斷たれ、獨逸に於いては發賣を禁止された。ワイトリングは之がために起つた購讀者の減少を嘆じた。此事實にも不拘、一部は尙竊かに送達せられ、巴里に於いて Bauer と稱する一獨逸製靴工の如きは、之を巴里に於ける多數の獨逸勞働者に販賣し、倫敦でも Karl Moll と稱する手工業者に依て發賣された(一三)同志は其後彼が Langenthal, Lausanne, Zürich に移轉後も續いて發行された。

(八)

一八四二年十二月彼の主著 „Garantien der Harmonie und Freiheit“ が出版されることとなつた。本書の出版を繞る幾多の感動すべき佳話が残されてゐる。ワイトリングは本書を公刊するに當つて其出版者を求むることが出来なかつたので „Die junge Generation“ の出版元たる Vevey の Alexander Michod から自費を以て二千部だけ印刷した。固より裕かならざる彼は其費用を勞働者の義捐的寄金、及び献身的行爲に訴へた。『本書の出版費は、豫約及び前金の方法を以て調達し、後に本を送ることにした。當地俱樂部の勞働者は各々二部を豫約し、十部の豫約者多數に上り Simon Schmidt は一人で二百部を引き受けた。巴里の連中から四百法を送つて寄した』(一四)是等の美舉に依て初めて本書は世に現はれることが出来た。

ワイトリングは本書に於いて初めて其の社會學説を最も系統的に且つ最も明晰に綜括してゐる。之に依て彼は獨逸共產主義の最初の理論家たるの榮譽を擔ふ事が出来た。

本書の出版は當に共產主義者の間に多大の反響を喚起せしのみならず亦當時の思想界の視聽を促した。

巴里からワイトリングに宛てた書簡の中に其消息の一端を覗ふ事が出来る。

『今しがた瞬く間に君の書物は無くなつてしまつた。君の書物は David Straub の『基督傳』の様な影響を及ぼすだらう。詰り、獨逸魂を根こそぎにするだらう。ロシア皇帝に一本送つてやり給へ。文句などはないよ』(一五)

Heinrich Heine はその „Geständnisse“ 中で

『このワイトリングは又才智の人であつた。彼は思想に缺くる所がない。„Garantien der Harmonie und Freiheit“ と題する彼の著述は久しい間、獨逸共產主義者の教示問答であつた』(一六)と云ひ更に Ludwig Feuerbach は次の如く言つてゐる。

『予は此裁縫職人の所説と精神に如何に驚かされたことか。實に彼は勞働階級の豫言者である。この若き手工業勞働者の眞摯、態度、勉強心は如何に私を驚かしたことか。この裁縫職人に較ぶれば大學の青年達は一體何たるやくざ者許りであらう。……この裁縫職人は一王冠よりも遙かに貴い。』

(一七)

マルクスは一八四四年 *Pariser Vorwärts* に寄せた „Kritische Randglossen zu dem Artikel: Der König von Preussen und die Sozialreform“ の中で獨逸労働者の文化程度を論じた個所で偶々本書に關説して、之に對して讃嘆を言を惜まなかつた。

『ブルジョワ的哲學者や學者達はブルジョワジイの解放即ち政治的解放のために、ワイトリングの著 „Garantien der Harmonie und Freiheit“ と較べ得る様な著述を、果して何處で示して呉れるであらうか。單調で、生氣なく平凡な獨逸の政治的文獻と獨逸労働者の華々しい文獻的の門出とを較べ、此のプロレタリアの偉大な子供靴と履き古した獨逸ブルジョワジイの小さい政治的の靴とを較べて見れば、世人は是が非でも獨逸の労働者に勝鬃を宣しなければならない。世人は又、獨逸プロレタリアは、英國のプロレタリアが歐洲プロレタリアの經濟學者であり、フランスのプロレタリアがその政治家である様に、全歐羅巴プロレタリアの理論家たる事を認めない譯には行かぬ』(一八)とワイトリングは本書に依り、獨逸労働者の間に共產主義を普及せしのみならず又ブルジョワ階級の間にも多數の共鳴者を得る事が出来た。ワアト地方の著名なる政治家 Druey や之を以て Buonarroti の歸依者であつた Delagaraz もワイトリングの共產主義を容れるに到つた。更に又 Zolingen の醫師 Sutermeister, ケッスの亡命者で當時 Zürich に在る Wilhelm Schulz 博士等の同志を加へた。彼が Georg Herwegh, Julius Fröbel 等と相識るに到つたのも専ら本書のお陰であつた。

本書は峻嚴なる官憲の手段、嚴密なる國境の檢閲にも不拘、獨逸及奧太利に播布せられた、瑞西に

於いて本書を普及するに殊功ありしは Kopenhagen 生れの Niels Petersen 及び前記 Simon Schmidt 等であつた。本書は一八四六年、一八四九年共に Hamburg に各第二版、第三版が出版されたが何れも發賣禁止の厄に遭ひ、僅に少部播布されたに過ぎなかつた。本書は續いて佛英諸の各語に翻譯せられた。

一八四三年三月ワイトリングはベルン州の Langenthal に居を移した。之は同地の出版業者 Immel 及び Cie. が其の發行せる „Der Schweizerische Volksbote“ の編輯に、彼が加はれば、„Die junge Generation“ などもつと安く印刷してもよいと申し出でた爲めである。

前述の如く新聞、著作、俱樂部、集會等の方法に依て共產主義の普及に努めしワイトリングは今や是等の方法のみに満足せず、更に瑞西に於いて發行せらるる多數の新聞に、屢々通信し、寄書してその宣傳を怠らなかつた。勿論是等の新聞は、共產主義を奉ずるに非ざるも、之に接近せる急進的新聞であつた。例之ヲウリッヒ急進主義者の機關紙 „Der Deutsche Bote aus der Schweiz“ (1842) 同誌廢刊後 Julius Fröbel の編輯する „Schweizerische Republikaner“ (1843) ベルン發行の „Volksblatt“ 同じくベルンで編輯せられる „Schweizer National-Zeitung“, Aarau 發行の „Posthornchen“, Sitten 發行の „Seeländer“, Dorfzeitung“ 等即ち之である。(一九)

(九)

ワイトリングの共產主義運動は、比較的短日月の間に顯著なる効果を收めた。一八四三年の始、彼は既往の運動の經過を顧みて、得意氣に之を報じてゐる『一八四〇年の當初には、佛蘭西系瑞西

にはゲンワに唯一つの獨逸手工業労働者の俱樂部とそれに非政治的俱樂部が一つ存する許りであつた。所が十八ヶ月前には、既に三個の俱樂部と二百名の會員が出来、今日では十三の俱樂部に七百五十名の會員が存在するに到つた。約四百名を擁するフランス人の俱樂部を加へれば、僅に千一百名の労働者が俱樂部生活をしてゐる譯である。今日の所では年々各俱樂部會員の五分の三は州を離れ、瑞西を去るが、直ぐに新會員が之に代つて入會するので、俱樂部は恰も年々六百名の人間を教育する學校の如きものである。(二〇)瑞西の殆んど各州に新なる同志が出来た。殊に各地に滞在する獨逸手工業者の間に最も多數の同志を得る事が出来た。ワイトリング流の労働者俱樂部は雨後の筍の如く生れ、之等の俱樂部は労働者の音楽俱樂部の名に匿れて地方的宣傳の中心となつた。

しかし乍らワイトリングの共產主義の宣傳は瑞西人の間には概して不成功に終つたと云つてよい。比較的成功を収めたのは爾來共產主義思想の殘存せしワット地方であつた。既に述べたが如く、後年の樞密議員にして Buonarroti の一味たる Delagacaz、同じく同地方に於て後年樞密院議長たりし Dreyer は共に熱心なる共產主義者として、ワイトリングの運動を援けた。

總てワイトリングの運動は最早瑞西にのみ限られざることとなつた。彼等は此地よりマルセイユの獨逸人の間に共產主義俱樂部を設立し、リヨン、及びブラッセル方面への連絡を得んと試みた。巴里、倫敦の同盟と呼應して、著名な旅行地に宣傳網を張り、この地に遍歴し來る獨逸労働者を捉へて、之に對して共產主義の精神を鼓吹した。斯の如き方法によつて間接に獨逸本國に宣傳を行つた。

更に一八四二年末、直接に獨逸本國に宣傳を行はんと欲した。即ち其地の極端なる急進主義者と連絡を取り、之に依り、*Die junge Generation* の購讀者數百名を求め同志を密かに獨逸本國に移入する考へであつた。

宣傳の效果に力を得て、更に、*Die Phalanx* と題する月刊雑誌を發行したり、多くの著作を出版したり、是等の書籍を出版する共同出版組合、是等の書籍を販賣する共同書籍販賣組合等を設立するの計畫すら考へられた。(二一)

(二一)

一八四三年の春、ワイトリングはロオザンヌからチュウリッヒへ移轉の決心をした。移轉の動機は、捲土重來共產主義運動に新生面を拓くと共に、此地に在住して多かれ少なかれ彼の運動に好意を持てる幾多の獨逸論客に接近して、運動の地盤を鞏固となし、かくて此地より獨逸本國に對して宣傳を行ふことを最も得策と考へたからである。

併し乍ら、翻つて當時の状態を観するに、形勢は決して彼の企圖を辛する底のものではなかつた。共產主義の浸潤、運動の進展に伴ふて、之に對する保守反動派の探盤、追求は日を逐ふて峻烈となつた。

瑞西に於ける保守黨の機關新聞 *Allgemeine Schweizer Zeitung* の如きは共產主義に對する恐怖と反感から次の如き威嚇的記事を掲げてゐる。

『自分の一舉一動が悉く當局の嚴重なる監視を受けねばならぬことは御本人のワイトリングが覺

悟してゐる筈だ』(C.H.D.)

更に一八四三年三月二日の同紙は共產主義に關する論説を掲げ其中で、共產主義者を殺人者だの、盜賊だの、掠奪者だのと嘲罵してゐる。

此間の消息は尙は當時の政局の一端にも覗ふことが出来る。Luzern 州は共產主義に對する法律案を締盟諸州に建議した。ゲンフの樞密院では、政府當局が積極的に労働者俱樂部に干渉すべきことを要求した。

是等の時勢に鑑みる時、ワイトリングが殊更、保守反動勢力の旺盛なるチュウリッヒに居を移すことは決して策の得たるものではなかつた。當時此地に滞在して逸早く此事實を看取した Julius Fröbel はワイトリングの轉居は、彼の志す共產主義運動を助成せず、却て運動の抑壓、撲滅に腐心せる反動派の術中に陥るものとなし、極力、彼の舉を思ひ止まらん事を勸請した。彼は Böden 宛の書簡の中で、若しワイトリングがチュウリッヒに來ることになれば、警察は決して彼を三日と猶豫はしないだらう。此地で共產主義を宣傳すれば必ず、第二のシュトラウス事件を惹起することになるであらうと言つて、暗にワイトリングの無暴を戒めてゐる。

之あるに不拘、ワイトリングは Fröbel の諫止を却けて、一八四三年五月チュウリッヒに移轉してしまつた。

當時チュウリッヒの形勢は既に、保守、急進兩主義の抗争に依て不安の徴を濃くしてゐた。急進主義の頭目として其機關紙 „Schweizerischer Republikaner“ を主宰せしは前記 Julius Fröbel であつ

た。彼は固より共產主義者ではなかつたが其所説は著しく社會主義的論調を帶びてゐた。既に同紙の第一號は明かに共產主義的傾向を有する綱領を掲げたために反動派の憎惡は一入増大した。號を逐ふて、愈々 Fröbel は共產主義に讓歩を示した。彼は同誌で『急進主義の特徴はそれが人道的社會主義に到る橋梁であるところに存する』と宣明して憚らなかつた。Fröbel の社會主義的傾向が強くなるに連れて、同志たる急進主義者の多くは、彼の態度を潔とせず寧ろ彼の失墜を願ひ、又其少數のものは連累を慮つて、彼の編輯を援助することを躊躇するに至つた。(二三) 反動派の壓迫、同志の離反に屈せず、彼は更に同誌四十七號に於いて共產主義擁護の言説を吐いてゐる、……

『今人間の世界に、吾々の政争とは較べ物にならぬ様な一大戦争が準備されつゝあることに世人も我々兩派の政治家達も氣付かなかつたとしたら、それは無知と言ふものだ。……』

この新なる民主主義は決して一個の政治的制度として生れたのではなく、社會的生活の状態として生れたものである。若し汝等が全人類の最も正しき要求に對して飽くまでも反對するならば、汝等は必ずや破滅の咀火を受け、苛責なき神の審判を受けるであらう。

踏みにじられ、抑えられた民衆が一度、手近に無數の同志あることを發見して、西は飢餓に窮せる愛蘭農民より東は露西亞の鞭打れてゐる農奴に到る迄、一齊に戦を擧げることになれば、何で我々瑞西人は黙視して居やうぞ』(二四)

彼の言説は愈々反對派の反感憎惡を激成するに過ぎなかつた。不安裡に惡化しゆく形勢は唯だ自然の破綻を俟つ以外に全く收拾の道がなかつた。遂にワイトリングの新著 „Das Evangelium der

armen Sünder“の刊行を機として、形勢は急天直下、最後の解決に急いでしまった。曩に Fröbel の杞憂せし事實は遂に實現されてしまった。

(十一)

四三年五月ワイトリングが新著の出版に先立つて、同書の豫約加入勧誘のために配布した趣意書の中で、彼は本書の内容と傾向に關して次の如く言つてゐる。

『本書に引用せし百餘の聖書の章句に依つて證せらるゝ通り、自由思想の最も大膽なる結論は基督の教義の精神と全く一致するものである』

同趣意書の豫告せし新著の内容目次は次の如くであつた。

『序文—信仰—希望—愛—聖書—大工と其の弟子—不信と懷疑—譬喩と言葉の遊戲—奇蹟—聖餐は共食會である—イエスは財産の撤廢を教ふる—イエスは貨幣の撤廢を教ふる—イエスは刑罰の撤廢を教ふる—イエスの教義の原理は勞働と享樂の共同社會—イエスの教義は自由と平等の原理—其同社會の教義を普及するためにイエスが必要とせし犠牲—罪深きイエス—罪人との交—イエスは罪深き女娘達と廻り合ひ、彼女等に助けらる—イエスは家族を否定する—イエスは戦争の非を説く—イエスは財産を尊重せず—財産に對するイエスの攻撃』

右の内容目次は端無くも教會の忌諱に觸れることとなり、遂に同年五月三十日チュウリッヒ僧侶會議は、右は明かに神を冒瀆するものとなし、檢事局に告發す可き旨の決議をなした。檢事局は直ちに調査に着手した。檢事局はワイトリングが六月九日 Aargau 州へ移轉の意嚮なることを聞知する

や、突如八日より九日の夜にかけて彼が勞働者俱樂部の會合から Pfauen なる旅館の歸途を擁して彼を捕縛して獄に收容してしまつた。引續いて、同書の印刷者 Hoff の家宅搜探を行ひ、校正刷、原稿を沒收し、又ワイトリングの家宅を襲ひ、共產主義運動と關係ある書類、殊に多數の私信を押收した。

檢事局は調査の結果に基いて事件の顛末を逐一政府當局に報告した。是に於いて政府は此機を逸せず、共產主義並に Fröbel 一派の急進主義の運動を徹底的に掃盪するの方針をとることに決した。其處で政府は Bluntschli 博士を主査とする五名より成る委員會を任命して其調査を委嘱した。Bluntschli 博士は當時自由黨に屬し、Julius Fröbel の政敵であつた。

委員會が政府に手交した報告は、Kommissionarbericht an die Regierung des Staates Zürich über die Kommunisten in der Schweiz. Nach den bei Weiting vorgefundenen Papieren erstattet von Bluntschli und Hottingen. Zürich, 1843 “として知られ、今日ワイトリング研究の最も貴重なる公文書となつてゐる。

委員會報告はワイトリングの審問とは全く關係無く、チュウリッヒの法律とは何等牴觸すること無き人々の私信を複刻し、更に彼の同志とは全く認められぬ人々の事情を調査してゐる。是等の事實に徴しても、名をワイトリングの調査に藉りて、一石二鳥的に宿年の政敵をも併せ葬り去らんとするの陋劣な魂膽が窺はれる。

該報告が公表せらるるに先立て Fröbel, Follen 等は、印刷濟の報告を見ると、自分達をも亦本事

伴の連累者と認めてゐるので、直に政府に抗議書を提出した。彼等はこの抗議書の中で、委員會の報告は全く故意の中傷、毀造に成るの故を以て、斷然其公表に反對すると共に、該報告の印刷は、人權を傷ふものなるが故に、直ちに之を放棄すべきか、若くは事件の判決まで一時中止せんことを要求した。併し乍ら、此申出は一八四三年七月二十一日の政府の布告に依て却下せられ、原告は單なる風評を基礎として政府委員會に抗議せし非禮に對して十六法の科料に處せられた。Follen は法廷で、再度、印刷せられたる報告は、事件の落着まで一時政府或は關係裁判所が押收せんことを求めたけれども遂に容れられなかつた。

(十二)

調査報告と共に委員會は本事件裁決の方法としてワイトリングの就縛前に出席した勞働者俱樂部の全會員は、市民たるものを除いて、州から放逐すべきこと、共產主義の宣傳若くは、共產主義俱樂部加入の嫌疑深き外國人は同じく州より驅逐すべきこと等の建議案を提出した。

委員會報告書は官費で印刷され、普通の書店で販賣されることとなつたが其結果は却て共產主義の宣傳を促すこととなつた。蓋し該報告は大部分ワイトリングの著書や書簡からの抜萃であり、未發表の原稿を公刊したので却て恰好の宣傳書として役立ち、其上、之を入手するに何等の危険も困難も伴はなかつたので非常に普及することになつたからである。殊にワイトリングの舊著 *Gründen der Harmonie und Freiheit* は此の報告書に依て知られたので、非常に賣れた。

報告書の公刊と相前後して、ワイトリングに對する豫審も終結を告げることとなり、愈々一八四

年六月三十日チュウリッヒ刑事裁判所はワイトリングに對する公判を開いた。續いて九月十六日の公判に際して検事はワイトリングが *Garantien* 及未刊の *Evangelium* 中で神を冒瀆し、財産を攻撃し、更に、共產主義宣傳のため秘密結社を組織せし廉に依り懲役一年半を求刑した。同裁判所は彼に對し、二ヶ月の未決を差引通算して六ヶ月の懲役と瑞西からの終身追放の判決を下した。此の時彼の辯護士 Rüttmann は、法廷で *Garantien* は嘗て Vevey で公刊の際何等禁止せられず。チュウリッヒに於いても同様何等の干渉を受けたることなきが故に、ワイトリングの判決の根據とならざる旨を説き、更に又 *Evangelium* の趣意書にも検事局並に裁判所が告發す可き理由を見出さざるのみか、検事局、裁判所の行爲は徒に僧侶會議の申告に阿諛するものなることを極力力説したけれども遂に顧みられなかつた。ワイトリングは法廷で、既に *Evangelium* の中で、試みたイエスの共產主義的解釋を辯明し自分が共產主義者となつたのは聖書の爲めであると論じた。彼は又「人間社會の上に堆積した塵埃はフランスの哲學者の手に依て初めて除去せられた」と言ひ、自説の決して神を冒瀆するものに非ず、隣人に對する愛の命令を實現するために天賦の才能を用ひざることを却て神に對する冒瀆であると力説して譲らなかつた。彼は亦同年十二月二十三日上級裁判所に於いて行はれた控訴裁判の際陳述して言ふ、「法律は水に等しい。法律も水も萬人に平等である。併し乍ら泳ぎ得ない者が溺死する様に、金のない者は法律のために獄舎に繋かれる。正義の何たるかは哲學者に依て色々に說かれて居るが尙ほ全く決定してゐない。宗教の教ふる所は、正義とは、他人のために善を施すことであるから、他人を處罰することは隣人を愛する所以ではない」。陳述の終りに裁判官

に向て『願くば神が貴下の蒙を啓き、私に對し穩和なる判決を與へ給はんことを』と言つた。同裁判所は彼に對し四ヶ月の未決を通算して十ヶ月の體刑と五年の追放を宣告した。Bluntschliは未決監にワイトリングを訪ねたが訪問の目的は知られてゐない。終審後ワイトリングはチュウリツヒ近郊の牢獄に收容された。(二五)

約一年の間、彼は空しく鐵窓裡に暮すこととなつた。服役中彼は屢々懲戒をうけ、又一説には苛酷なる肉體の析檻を受けたと伝えられてゐる。放免後彼は門下 Andreas Dietschと共に亞米利加に渡りこの地に共產主義植民地を建設する考へであつたが、チュウリツヒ政府は飽くまで彼を普魯西官憲に引渡すことを主張して、之を聽き入れなかつた。一八四四年五月二十一日早朝ワイトリングは Schaffhausen に護送されることとなつたが彼は牢獄前で『皆さん、私をお助け下さい。ワイトリングは之から護送されなければなりません』と叫び、必死となつて拒んだので、一時彼を獄舎に伴れ戻し、それから手足を縛り上げて護送車に收容しなければならなかつた。獨逸國境で迎へのバアデン官憲に引渡しそれから普魯西に送還された。次いで彼はマグデブルグに赴いたがこの地で脱走者として捕縛せられたが、證據不充分のため放免せられ、ハンプブルグに旅立つた。

曩に出版せられずして終つた „Das Evangelium der armen Sünder“ は家宅捜探の際其自餘大部分の原稿が幸にも没收を免かれたので、ワイトリングの知友達に依り一八四五年ベルンの Jenni, Sohn から „Das Evangelium eines armen Sünder“ と標題を改めて出版せらるゝこととなつた。同時に佛譯も刊行された。程經て原稿は幾多の個所の補充を必要とするに到ると共にワイトリングも

既に獄中、新版を出し度い希望があつたので、彼の放免後、一八四六年 Bielefelden から再び標題を „Das Evangelium des armen Sünder“ と改め、第二版改訂増補版を出版することとなつた。此版と初版との主なる相違點は、宣傳組織計畫の添加と内容目次の分類を變更した點に在る。(二六)

(十三)

チュウリツヒ政府の彈壓政策は全瑞西共產主義運動から脚下の土を奪ふこととなつた。横暴なる官憲の抑壓は、著しく共產主義者の怨嗟を買ひ、却て一時其奮起を促すこととなつた。此時に際して、ワイトリングの考案に成つた共產主義的施設は愈々實際的效果を示し、例之是等の施設の剩餘金で教師を雇傭し、小冊子を印刷し、失職者に保護を供與し、新聞を備へ、又圖書室にはバボエフからブルウドンに到る社會主義者の著書を備ふる等であつた。實生活に於いても相互に助け合ひ、享樂にも攝生中庸を怠らなかつた。是等の物質的精神的紐帶はよく動もすれば離合常なき共產主義者をして其の結束を固くし、彼等を奮起せしめた。巴里在住の普魯西大使の伯林に報する處に依れば、委員會報告書は却て、正義者同盟に對する二百名の獨逸手工業青年の加入を促したとある。Moses Hess は嘲笑的に Bluntschli の怪俄の功名を稱揚してゐる。委員會報告書が公表せられて間も無く、之に對して „Über den Kommunismus in der Schweiz, eine Beleuchtung des Kommissionsberichts des Herrn Dr. Bluntschli über die Kommunisten in der Schweiz nach den bei Weiting vorgefundenen Papieren“ なる匿名の反駁書が現はれた。本書の著者は勿論ワイトリング流の共產主義者ではなかつた。革命的方法に依て共產社會を實現せんと努むる彼と異り、萬人の平和的、自由合意的結合に依て之を到

達するに在った。併し乍らこの著者も亦ワイトリングと同様に、聖書の章句を引照し、基督教義の上に社會主義を確立せんと欲した。又 „Der Schriftsteller Wilhelm Weitling und der Kommunismus in Zürich, eine Verteidigungsschrift“ 及び „Brief eines Herrn Pfarrers in Basel an einen Kommunisten in Lansame, nebst Antwort darauf“ の兩匿名書の刊行を見た。前者は Seiler の著であると言はれて居る。更に次いでブラシ製造人 Andreas Dietrich の著 „Das tausendjährige Reich“ が現れ忽ち三版を重ねた。

是等の冊子は何れも僅々數ヶ月以内に前後して發行されたが其賣行は良好であつた。この事實はワイトリングが能く地盤を開拓して、共產主義の普及に努力せし何よりの證據である(二七)。併し乍ら、共產主義者の懸命の努力にも不拘、一旦傾きかけた悲運を挽回することは出来なかつた。

共產主義運動は指導者を要ひ、其機關誌 „Die Junge Generation“ は廢刊となつた。多數の獨逸労働者が一舉にチュウリッヒ州から追放せられたために、當に當地の運動が全く屏息せしのみならず、亦共產主義者相互の連絡は一時全く途絶してしまつた。終始共產主義運動を援助した Fröbel の主宰する „Schweizer Republikaner“ も亦讀者の不評を買ひ、廢刊の止む無きに到つた。從來共產主義者の通信寄稿のために紙面を提供した幾多の新聞雜誌も亦この事件の餘沫に懲りて、敬遠的態度を採るに到つた。加之 „Das Evangelium“ は出版毎に沒收せられたので多額の金子を空しく浪費してしまつた。斯様の事情の下に在つて、豫て意圖せる獨逸本國への宣傳計畫の如き到底實現せ

らるべくもなかつた。(二八)

就中共產主義運動の受けた致命的打撃は卓越せる理論家たり、天賦の革命兒たるワイトリングを喪つたことであると云はねばならない。紛糾混亂の後を承けて August Becker がワイトリングに代つて指導者の地位に就くこととなつた。

曩に „Junge Generation“ 廢刊となり、更に四五年一月瑞西で多數の讀者を持ち、Becker が久しく關係して居た „Pariser Vorwärts“ も廢刊となつたので、彼は同年四月ロオザンヌで新に „Die fröhliche Botschaft“ なる標題の月刊誌を出して、共產主義の普及に力めた。併し乍ら運動は却て彼の爲めに禍ひせられて遅々として進境を示さなかつた。蓋し生來彼は勇氣に乏しく、獨立自營の能力を缺き、且つ何等の定見を持たなかつた。嘗て Weidig に依て共和主義者となり、次にワイトリングに依て共產主義運動に参加した彼は、彼去りし後繼つて Charlatan Georg Kuhlmann に心酔するに至つた。

Kuhlmann はホルシユタインの人で一八四四年の末、瑞西に來り此處で彼の所謂『新學說』に関する講演を試みた。共產主義者は是等の講演を收録して „Die Neue Welt oder das Reich des Geistes auf Erden“ なる標題を附し之に對する Becker の序言と共に、四五年ゲンで刊行した。(二九)

Becker は彼の説に傾倒し „Die Fröhliche Botschaft“ で屢々彼の説を祖述するに力めた。之が爲めに彼は漸次ワイトリングの共產主義より離れることとなり、其運動も頓に衰退に赴いた。一八四六年三月チュウリッヒに於いて共產主義者例外法が發布せられて、爰に共產主義運動は全く肢足

を奪はれてしまった。Becker は瑞西を去り再び彷徨の旅に上つた。

併し乍ら共產主義運動は永遠に死滅したのではない。ワイトリングの共產主義運動は未熟なる資本主義の社會狀態のために躓いたのである。ワイトリング及其一味の運動は決して水泡に歸したのではない。彼等の點火した火焔は燃え盡してしまつたが其餘燼は尙ほ灼熱してゐた。約二十年の後フキルヂナンド・ラッサルは實にこの餘燼を以て獨逸社會民主黨の爐に火を點じたのである。(三〇)

(一) Emil Kaler, Wilhelm Weiling, Seine Agitation und Lehre im geschichtlichen Zusammenhange dargestellt. 1887. S. 33.

(二) 編輯「共產黨宣言」前史の一編 三田學會雜誌第二十卷六號參照

(三) Die geheimen deutschen Verbindungen in der Schweiz seit 1833. Ein Beitrag zur Geschichte des modernen Radikalismus und Kommunismus, 1847. s. 89.

(四) Georg Adler, Die Geschichte der ersten sozialpolitischen Arbeiterbewegung in Deutschland, mit besonderer Rücksicht auf die einwirkenden Theorien. 1885 S. 31-32.

(五) Kaler, a. a. O., S. 33.

(六) Kaler, a. a. O., S. 35.

(七) Kaler, a. a. O., S. 35-36.

(八) Kaler, a. a. O., S. 36-37.

(九) Kaler, a. a. O., S. 36.

(一〇) Adler, a. a. O., S. 29-30.

(一一) Karl Gutzkow, Briefe aus Paris. Zweiter Teil. 1842. S. 103-104.

(一二) Hermann Schlüter, Die Anfänge der deutschen Arbeiterbewegung in America. 1907 S. 59.

(一三) Gutzkow, a. a. O., S. 102.

(一四) Schlüter, a. a. O., S. 59.

(一五) Die geheimen deutschen Verbindungen in der Schweiz seit 1833. S. 77.

(一六) Zitiert bei einem Vorwort von Eduard Fuchs, in: Wilhelm Weiling, Das Evangelium eines armen Sünders.

(一七) Buddensieg, Die Kultur des deutschen Proletariats im Zeitalter des Frühkapitalismus. S. 19.

(一八) Aus dem literarischen Nachlass von Karl Marx und Friedrich Engels Bd. II s. 55.

(一九) Adler, a. a. O., S. 38.

(二〇) Die geheimen deutschen Verbindungen in der Schweiz seit 1833. S. 82.

(二一) Adler, a. a. O., S. 14-2.

(二二) Kaler, a. a. O., S. 39.

(二三) Adler, a. a. O., S. 45-46.

(二四) Die geheimen Deutschen Verbindungen in der Schweiz seit 1833. S. 101

(二五) Kaler, a. a. O., S. 59-63.

(二六) Kaler, a. a. O., S. 71-72, 64-65.

(二七) Adler, a. a. O., S. 65, Kaler, a. a. O., S. 65.

(二八) Adler, a. a. O., S. 64.

(二九) Kaler, a. a. O., S. 66.

(三〇) Mehring, Geschichte der deutschen Sozialdemokratie I. Bd. S. 236-7.